

校訓碑建立の経緯

平成14年4月 第12代校長として着任していた私は、近代的で真新しい校舎及びこれを取り巻くすばらしい環境に感嘆した。

校舎は平成11年4月、旧校舎の老朽化に伴い、町民の教育への願や将来の鹿町町を担う人材育成を期して、現在地の小高い山を造成して建設されたものである。これまでの校舎は歌ヶ浦トンネルを町役場の方向に抜けたところに位置していた。現在跡地は民間に無償貸与されて福祉施設として活用されている。

着任早々、相原教育長から「校訓碑建立」の話が提案なされた。時は折しも平成の市町村大合併のまっただ中にあり、数年後は「鹿町町」が消滅する可能性を秘めた時代の狭間にあった。

相原教育長は、「市町村合併が進行して鹿町町がなくなれば、町立中学校の存在を後世に残せなくなる。」ことを懸念し、今回の建立を英断・企画したものである。

これにより私は碑文の検討に入った。まず校訓碑の建立をPTA会員や地域住民に広報して碑文の内容を募集した。一方で出張や私事旅行の度に他校や他県の碑文を見聞し、その思いや経緯について情報の収集を行った。

着任2年目、いよいよ予算化の目処が立ち、建立が本格化した。碑文については様々な意見や想いを総合して検討した結果、下記のように決めた。「人は人の中でしか人にはなり得ない」。今日社会に蔓延する利己的・自己中心的な考え、過剰なまでの個性尊重などは、子どもの成長に大きな弊害をもたらしていると考え、人が成長するためには「相互に助け合い、切磋琢磨し、共に生きること」が重要である。特に心の教育が重要な今の時代、社会は個人で成り立つものなく、人々が「共に生きる」中で成り立つものであることを教育する必要があると思うし、社会は「共生」の時代をめざしていた。

本校では教育目標にもそのことを掲げているし、日々の生活の中でも常に教職員一同意識して指導に当たっている。さらに本町は「学社融合事業の先進町」として自負する町立小・中学校では、町民が常に学校の中に存在している。これらの「想いや願」をすべて総合したとき「～あえ」という文言に集約された。

建立は当時の教頭である橋本隆保氏の紹介で鷹島町大石石材店が担当してくれた。予算化の時少なく見積もっていたため大石石材店は赤字を覚悟の仕事が強いられたが、大石石材店これを押し快諾し、立派な碑の建立に尽力してくれた。

平成16年3月吉日（12日）、高校入学選抜試験を終えた3年生立ち会いのもと、生徒会長（松田成美）の除幕により悲願である校訓碑の建立がなされた。当日は宮田町長はじめ多数の保護者立ち会いのもと建立式典をおこなった。



磨きあえ心
学びあえ知
鍛えあえ体

平成十六年三月吉日 北松浦郡鹿町町建立
(第12代校長 坂本政徳)